2007 年度国際政治経済論研究 1（シラバス詳細）　　下川雅嗣

http://pweb.sophia.ac.jp/~m-shimok/

[授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等]

国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。その際経済学的な分析方法・視点を身につけることを重視し、また何らかの点で貧困に関わる問題にも触れたい。経済学をベースにした文献、場合によっては国際経済学または開発経済学の少しレベルの高い教科書を読んで討論する予定だが、最終的には授業の参加者と相談の上決定する。経済学の基礎的知識があることが望ましいが、そうでない場合、学部開講の国際経済学 1,2 及び国際政治経済論 1,2 を併せて受講することが勧められる。

[評価方法]

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い及び発言内容、期末試験（？）等で総合的に評価する予定。場合によってはタームペーパーも要求する。

[共通文献購読について]

＜テキスト＞

矢野誠（2005）『「質の時代」のシステム改革：良い市場とは何か？』岩波書店。

下川雅嗣（2007）「経済学から見たグローバリゼーション」『コスモポリス』 Vol.1、近刊。

絵所秀紀、穂坂光彦、野上裕生［編著］（2004）『貧困と開発』日本評論社。

速水 佑次郎（2000）『開発経済学―諸国民の貧困と富』創文社。

＜参考文献＞

①矢野誠（2001）『ミクロ経済学の基礎』岩波書店。

→経済学を基礎からきちんとやりたい人はこの本をまず読むことをお薦め。この講義の最初の部分は、「ミクロ経済学の基礎」の内容を取り扱う。これと続編である**矢野誠著**（2001）**『ミクロ経済学の応用』岩波書店**の 2 冊を熟読すれば、学部レベルの経済学のすべて、及び経済学的な考え方・センスの本質はほぼ修得できる。

②クルグマン・オブズフェルド（石井・浦田・竹中他訳）『国際経済―理論と政策：Ⅰ国際貿易』第３版、新世社。←Krugman, P. R. and Obstfeld, M. (2006), *International Economics: Theory and Policy*, Seventh Edition, Addison-Wesley.

③Ray, D. (1998), *Development Economics,* Princeton University Press.→ch.16-18.

→簡潔にまとめられている。既習者が整理のために読みには役に立つ。本全体は国際政治経済学全体への開きをもった開発経済学の大学 4 年生または大学院１年生レベルの標準的テキスト。

＜内容及びそれぞれの本の目的、やり方＞

１）矢野誠（2005)、『「質の時代」のシステム改革：良い市場とは何か？』 岩波書店。

→経済的側面におけるグローバリゼーションはしばしば、世界共通市場化と言われる。また所謂“新自由主義的グローバリゼーション”と言われている市場至上主義は大きな問題を持つとした反対運動も大きい。いずれにしても『市場』というものが中心的なテーマで

ある。しかしながら、あまり市場の本質的メカニズムが何なのか、そしてその市場の質についての議論は聞かないし、多くの人はそれを理解していないように思う。ここでは、この本を輪読することによって“新自由主義的グローバリゼーション”の問題点等を考えるためにも、市場の本質的メカニズム、市場の質について理解を深め、高質な市場とは何か、高質な市場を作っていくための条件は何なのか等について考えていきたい。
ただし、この本は国内市場（しかも先進国、特にアメリカの市場の例が多い）において市場の質を論じ、また特にアメリカの市場に比べて日本の国内市場の質が低くそれを高くするためには何が必要かというようなことを中心テーマにしている。よって、読者はこの本に書かれていることを理解し、これをネタにして、途上国市場、さらには国際市場において市場の質がどうなっているのか思いを巡らせて欲しい（例えば、ＷＴＯは国際市場の質を高めているのか、低めているのか等）。
➔各パートに対して２人の担当者（概要の説明(model の説明も行うこと)、コメンテーター（応用例の提示、問題点の指摘、討議のポイントの提示、途上国市場や国際市場での検討）。
➔これと並行して、『ミクロ経済学の基礎』の１章、２章、５章、７章。

２）絵所秀紀、穂坂光彦、野上裕生［編著］（2004）、『貧困と開発』日本評論社。

これはテキスト的な部分、その章の著者個人の研究している分野のサーベイ論文的な部分、研究論文等が混成した本である。全体をざっと読むことにより、この分野のだいたいの見取り図が得られるだろう。しかしながら、クラスではこの中から幾つかの章だけを取り上げるか、またはそれに関連する論文を読みかもしれない。または、この本の代わりに、『開発経済学―諸国民の貧困と富』かそれ以外のものを取り扱うかもしれない。それは５月の中ごろまでに参加者の意見も聞きながら決めていきたい。

＜日程、やり方＞

下記日程は目安。進み具合はどんどんずれ込む可能性があります。
1. 4/12：イントロダクション、自己紹介、内容・進め方の決定。
2. 4/19：ミクロ経済学の基礎集中講義①（経済学の考え方、合理的選択）
3. 4/26：ミクロ経済学の基礎集中講義②（経済（モデル）分析、数学的論理）
4. 5/10：ミクロ経済学の基礎集中講義③　（消費者理論）
5. 5/17：予備：試験？

※以上は、矢野『ミクロ経済学の基礎』の第１章、第２章に相当する。受講生は以後、学部開講の国際経済学１（火曜日３限）に参加するか、この本の第５章、第７章を独習することが求められる。適宜、問題を用意し、宿題か試験を行う。

5. 5/24：特別講義（予定：場合によっては変更の可能性あり）

Ryo Takashima (Department of Economics and Business, Washington & Jefferson College)

“Economic Policy and the Level of Self-Perceived Well-Being: an International Comparison”

“Nash Equilibrium Tariffs and Illegal Immigration: An Analysis of Preferential Trade Liberalization”

※上記２つのいずれか（または両方）を数式を使わずに話をしてもらう予定。

7. 5/31：矢野　　序章「21 世紀は高質な市場を求めている」
　　第 1 章「市場が現代経済を支える」
　　第 2 章「利益追求のための競争排除が市場の質を下げる」
8. 6/7：矢野　　第 3 章「競争市場が労働市場の質を下げた」
　　第 4 章「高質な競争と情報が資本市場を支える」
9. 6/14：矢野　　第 5 章「適切なルールが高質な市場を支える」
　　終章「高質な市場が育つシステムを創ろう」
10.6/21：経済学から見たグローバリゼーション①（講義）
11.6/28：経済学から見たグローバリゼーション②（講義）
12. 7/5：『貧困と開発』または『開発経済学』他
13. 7/12：『貧困と開発』または『開発経済学』他
14. 7/19：『貧困と開発』または『開発経済学』他

******後期について*************

案１）後期は、修士論文等執筆の中間報告を優先させて行うが、その合間に、もしメンバーが同じ場合は前期の残った部分、使わなかった本をやっても良い。

案２）後期は、ケーススタディということなので、テキスト風ではなく、スティグリッツの“ Fair Trade for All”という本やバグワッテイの「グローバリゼーションを擁護する」という本を読んでも良い。

案３）途上国スラムでの貧困者の活動を中心とした論文等を読んだり、私の最近の報告をやったりしても良い。

後期も続けて参加したい人の意見を尊重したいと思います。